



〔はじめに〕

ナベヅルは夏季にロシアや中国北部で繁殖し、日本や中国南部で越冬する渡り鳥である。野生では越冬地の開発により生息数が減少しており、希少動物として保護の対象とされている。飼育下でも個体数が少なく、繁殖も困難な種である。この種の保護を進めるためには、野生個体群の生息地を分散させることと、飼育下個体の維持増殖をはかることが重要である。何れの場合にも遺伝的な情報を把握することが必要となる。

中国はナベヅルの繁殖地、越冬地を有しており、多くの飼育個体を有しているため、今後保護増殖を進めるにあたり重要な役割を担うと考えられる。従って、中国の飼育個体情報の把握と、野生個体からの遺伝情報の収集、解析を目的として本事業を実施した。

〔中国国内飼育個体情報について〕

平成13年より中国飼育下ツル類保全委員長と連絡を取り、中国国内飼育個体群の個体情報提供を依頼したが、情報収集に時間がかかるとの返答を得た。平成14年12月に天王寺動植物公園事務所職員が訪中し、関係者に接触して、ナベヅルの国際血統登録状況等を説明するとともに個体情報提供について再度依頼した。平成15年2月中旬にハルピン動物園のナベヅルの中国国内個体登録担当者候補から個体情報リストを收受したので、国際血統登録データベースに入力し、その情報を載せた2002年度版国際血統登録簿を平成15年9月に発行した。

提供を受けた情報からは、現在中国国内では11カ所で32個体（♂14、♀10、不明8）のナベヅルが飼育されていること、中国においても他の地域と同様に限られた施設でしか繁殖していないこと、性別不明である個体の数が多いこと、ペアで飼育されていない施設が多いことなどが明らかとなった。

ナベヅルは現在、アジア、ヨーロッパ、アメリカ合衆国で飼育されているが、何れの地域においても血統的な問題が生じている。世界中で最も多くの飼育個体を保有している中国の協力の下、国際的な繁殖計画を進めることが必要であり、従って今回得られた情報は大変重要である。日本は広域的な繁殖計画の責任を負う立場であり、今回の事業で中国との協力体制が前進したことも、重要な成果であると言える。

〔中国国内越冬個体群の遺伝子調査について〕

ナベヅルの中国国内越冬個体群の遺伝子調査については、中国の関係機関と共同で研究を進めた。中国国内の越冬地で採取した羽根検体より抽出した遺伝子をもとに、ミトコンドリアD-loop領域の塩基配列を決定し、中国越冬個体群の遺伝的多様性ならびに他の個体群との遺伝的差異について検討するという内容である。共同研究については平成14年3月に合意に達し、条件

整理を行った上で平成14年12月に安徽大学、安徽省野生動物保護管理局、兵庫医科大学、大阪市天王寺動植物公園事務所の間で契約書を取り交わした。同時に中国政府による検体採取の許可が得られたため、同12月に中国安徽省内の安徽升金湖国家自然保護区・安徽安慶沿江湿地自然保護区において羽根検体を100本以上採取した。その後、ワシントン条約に基づく検体の輸出入手続きを進め、許可書の発行を受けて、平成15年8月に安徽大学の職員1名が検体とともに来日した。来日した安徽大学職員は、およそ1ヶ月間日本に滞在し、その間に兵庫医科大学において遺伝子解析操作が進められた。

検体数が多いことより解析作業は継続中である。しかし、これまでに得られたデータからは、中国の越冬個体群で見られる遺伝的多様性は小集団の規模に応じた程度であること、中国で越冬する個体の多くは日本の個体群と同じ遺伝子パターンであるが、一部の個体は独自のパターンを有すること、などが明らかとなっている。これらのことは、中国の個体群と日本の個体群の繁殖地が近接している可能性が高いこと、中国の個体群の遺伝的価値が高いことを示している。結果は、すべての解析が完了した後に、論文として公表する予定である。

今回の事業により、野生個体の保護対策を進める上で、非常に有用である遺伝的情報が得られた。今後この情報をもとに、広域的な保護計画を検討する必要がある。

【まとめ】

ナベヅルの保護増殖を目的として、中国の飼育個体群についての個体情報の収集と、中国で越冬している野生個体群の遺伝子解析を試みた。その結果、飼育個体群については、繁殖計画の策定に必要なとされる詳細な情報を得ることができた。また、野生個体群については、日本の越冬個体群と遺伝的に近い関係にあるが、独自性も有していることが明らかとなった。

今回の事業によって、ナベヅルの保護増殖を進めるために必要な情報を多数得ることができ、大きな成果をあげられた。

[閉じる]